

2023年(令和5年)3月9日(木曜日)



## AMR<sup>な</sup>どロボ事業強化

### 兼松アドバンスド・マテリアルズ

兼松アドバン  
スド・マテリア

配送ロボット「Lucki」

ルス(東京都中央区)は、新規事業として各種ロボットの販売を本格化させて

いる。AGV(無人搬送車)／AMR(自律走行型搬送ロボット)、ホテル用配膳ロボットなどを取り扱い、システム設計から据え付け、メンテナンスまで対応し、顧客のDX推進をサポートする。

同社はこれまで、銅やアルミニウムなど非鉄金属材料を中心に電子部品、ケミカル材料といった多様な電子材料を取り扱い、リン青銅や黄銅などの非鉄金属材料をスリット加工し、顧客へJIT(ジャスト・イン・タイム)で納入するサービスを提供。加えて装置D



X関連事業を立ち上げ、輸入ロボットの販売を本格化し実績を上げている。

廉価版のAMRとして、中国オリオンスター社(北京市)の低価格・高機能の配送ロボット「Lucki」を2021年末から販売。通常のAMRと比較し、本体価格は約半額、設定費用は約10分の1という低価格が特徴だ。耐荷重は40kgで、主に電子部品など小型の配送物に特化。1〜2日で設定できる。位置測定システムはSLAMとタグを併用。

オリオンスターは16年に

設立され、配膳・配送ロボットでグローバル3位の市場シェアを確保している。

中国スタンダードロボット社(深圳市)のAMRも販売している。レーザースLAM式のロボットで高精度な運搬に対応でき、停止精度は3mm以内と世界最高水準を実現。スタンダードロボットは中国でも特許取得数が多い無人搬送ロボットメーカーで、日系企業とも多くの取引実績を持つ。

ホテル用ロボットでは、中国YUNJIテクノロジーズ社(北京市)のホテル用デリバリーロボットを今年1月から販売。国内のホテルなどへのPRを本格化し、自律走行型サービスロボット導入によるブランドイメージの向上や人件費削減、作業効率向上、安全性向上(非接触)などのメリットを訴求していく。

このほか、LGディスプレイの国内代理店として、

透明OLEDパネル(透過有機ELサイネージ)の国内販売を22年12月にスタートした。ディスプレイが向いている空間を照らして周囲に調和させることで新たな空間を実現する。サイズは30/55型で、23年中に77型を追加する予定だ。タッチ機能の搭載も可能。国内のホテルや鉄道会社などにアピールする。

今後、「簡易走行ロボット、AMRロボット、ホテル用ロボットなどを合わせ、年間100台のロボット販売を目指す」(坂根悠生常務取締役)。

同社は78年に兼松の非鉄金属の関連会社として設立された兼松金属販売がルーツ。兼松グループの組織再編などを経て15年に兼松全額出資の新社社として設立された。